

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 30 日現在

機関番号：32625

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23730762

研究課題名(和文)戦後日本における思春期男子への性教育実践の実態と課題に関する研究

研究課題名(英文)A Historical Research on Sexuality Education for Male Adolescents in Japan after World War II

研究代表者

茂木 輝順(MOTEGI, Terunori)

女子栄養大学・栄養科学研究所・客員研究員

研究者番号：40570677

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文):本研究は、戦後の日本における性教育をジェンダーの視点から、特に、思春期の男子を対象にした性教育について、その歴史的展開を明らかにしようとしたものである。

本研究による主な成果は以下の3点である。(1)性教育の手引き・実践報告書等文献目録を作成した。(2)およそ6500の学習指導案を集め、性教育の学習指導案をデータベース化した。(3)本研究から得られた知見を『現代性教育研究ジャーナル』誌の連載において公表した(連載は現在も、継続中である)。

研究成果の概要(英文):This study examined Japanese sexuality education after World War II from the point of view of the gender. Particularly, I paid my attention to sexuality education for male adolescents.

The products of this study are mainly 3 points as below. (1) This study constructed a bibliography of guidelines and practice reports about sexuality education. (2) This study constructed a database of about 6500 teaching plans about sexuality education. (3) The applicant of this study posted the series in "Monthly Report Sex Education Journal"(this is ongoing).

研究分野：教育学

キーワード：性教育 思春期 教育史

## 1. 研究開始当初の背景

日本は先進諸国の中でも、HIV/AIDSが  
増加している数少ない国のうちの一つである。また、学校教育の中に、必ずしも、性教育は明確に位置づいておらず、子どもたちに、科学的に正確な情報、子どもたちが安心を感じられるような情報が十分に提供できているとは言えない状況にある。

そういったなかでも、男の子はさらに、性教育から排除される傾向にある。“体育館や保健室に女子だけが集められ月経指導を受けている間、男子は外でサッカーなどをして遊んでいた”という光景は、かつては多くの小中学校で見られた。もちろん、性教育では、月経や射精といった身体の仕組みを学ぶだけではなく、他者との関係性の中で自らの性のあり方を構築できるような学習内容が保障されなければならない。しかし、男の子はその入り口の段階で、学習権を奪われてきたと言える。これは、ジェンダーの視点からも、非常に重要な課題だと考えられる。

## 2. 研究の目的

戦後の日本の性教育の歴史的展開を明らかにしつつ、性教育の中で思春期の男の子の<性>がどのように扱われてきたのかを、実際に行われてきた性教育に即して明らかにすることを、研究の目的とした。

日本の性教育の歴史研究そのものがまだ十分に進展しているとはいえ、歴史の空白を埋めるといっても、戦後、どのような性教育が構想され、実施されていたかを明らかにすることは、非常に重要な取り組みであると考えられる。

## 3. 研究の方法

本研究は、以下の研究方法によって進めた。

- (1) 「性教育の手引き」「実践報告書」などの史資料を収集・閲覧する。これらは、市販されないのが通常であるため、一般の図書館はほとんど所蔵しておらず、日本性教育協会や地方自治体の教育センターなど限られた機関にしか所蔵されていない。そのため、各地における実地調査を行う必要がある。
- (2) 収集・閲覧した史資料のデータベース化、特に、「性教育の手引き」や「実践報告書」などに収録されている学習指導案の、「授業タイトル」「対象学年」「授業形態(男女別/共修等)」「使用教材教具名」「授業キーワード」「授業ジャンル」「掲載ペ

ージ」「キーワード」などデータベース化する。

これらの作業をとおして、戦後日本における性教育の実践内容の時代的変遷や地域的な差異を、男子への性教育に着目しながら、明らかにする。

## 4. 研究成果

研究期間全体を通じての主な研究成果をまとめると、以下の3点となる。

- (1) 戦後から1980年までに、地方公共団体(都道府県・市区町村)が発行した性教育の手引きや各学校(小学校・中学校・高等学校、等)が発行した性教育の実践報告書の文献目録を作成した。あわせて、性教育実践で使われるスライド・録音教材・ビデオなどの教材についてのリストを作成し、可能なものについては入手した。さらに、把握できた範囲で、1950～70年代における性教育・純潔教育の研究指定校の研究年次や研究指定区分(文部省・都道府県教委・市町村教委・自主研究等)を整理したリストを作成した。
- (2) 性教育の手引きや実践報告書などに掲載されている学習指導案の性教育指導案データベースを構築した。本研究期間終了時にデータベースに蓄積されたレコード数はおよそ6500である。
- (3) 連載「性教育の歴史を尋ねる 戦後・純潔教育編」(『現代性教育研究ジャーナル』誌)において、本研究から得られた知見の公表を行っている。  
1940年代後半から1950年代前半における京都府、兵庫県、北海道、香川県の性教育や純潔教育の一端を明らかにすることができた。なかでも、1948年の京都府『性教育指導要領』や同年の兵庫県『性教育資料』では、女子のみに月経の指導を行う性教育カリキュラムが作成されていた。そして(本研究期間終了時には、本連載では未発表であるが)1950年代後半には、男女で時間数や内容が、大きく異なる性教育のカリキュラムが作成されている。例えば、1957年に山形県教育委員会が発行した『学校における性教育計画篇』に示された中学校の性教育のカリキュラムでは、男子は、1年生で「人体の成長」1時間、2年生で「人体の成熟」2時間、3年生で「男女の交際」2時間と「幸福な結婚」1時間を学ぶことが示さ

れているのに対し、女子は、これらに加え、1年生で「月経教育」2時間、2年生で「母性への歩み(一)」3時間、3年生で「母性への歩み(二)」4時間と「性事故の防止」1時間を学ぶことになっている。中学校の3年間で、女子が16時間配分されているのに対し、男子は6時間の配分である。この例に代表されるような男女で不均衡な性教育カリキュラムは、女子向き課程・男子向き課程と男女でカリキュラムが分かれていた家庭科、男女別修で行われることが多かった保健科、によって支えられていたと考えられる。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 13 件)

茂木輝順、性教育の歴史を尋ねる戦後・純潔教育編(22)結婚・性科学・性教育に関する展覧会、現代性教育研究ジャーナル、46号、p.11、2015年、査読無

茂木輝順、性教育の歴史を尋ねる戦後・純潔教育編(21)香川県における性教育現状調査、現代性教育研究ジャーナル、45号、p.7、2014年、査読無

茂木輝順、性教育の歴史を尋ねる戦後・純潔教育編(20)北海道純潔教育委員会、現代性教育研究ジャーナル、44号、p.7、2014年、査読無

茂木輝順、性教育の歴史を尋ねる戦後・純潔教育編(15)戦後初期の高等学校「生物」「家族」「時事問題」教科書における性教育関連記述、現代性教育研究ジャーナル、39号、p.12、2014年、査読無

茂木輝順、性教育の歴史を尋ねる戦後・純潔教育編(14)学校保健教育改革における性教育・純潔教育(その2)、現代性教育研究ジャーナル、38号、p.7、2014年、査読無

茂木輝順、性教育の歴史を尋ねる戦後・純潔教育編(13)学校保健教育改革における性教育・純潔教育(その1)、現代性教育研究ジャーナル、37号、p.9、2014年、査読無

茂木輝順、性教育の歴史を尋ねる戦後・純潔教育編(12)兵庫県における『性教育資料』(1948年3月・12月)、現代性教育研究ジャーナル、36号、p.7、2014年、

査読無

茂木輝順、性教育の歴史を尋ねる戦後・純潔教育編(11)京都における「性教育指導要領(試案)」(1948年6月)、現代性教育研究ジャーナル、35号、p.7、2014年、査読無

茂木輝順、性教育の歴史を尋ねる戦後・純潔教育編(7)日本性教育協会の活動、現代性教育研究ジャーナル、30号、p.7、2013年、査読無

茂木輝順、性教育の歴史を尋ねる戦後・純潔教育編(6)日本性教育協会の設立、現代性教育研究ジャーナル、30号、p.7、2013年、査読無

茂木輝順、性教育の歴史を尋ねる戦後・純潔教育編(5)杉並校キャンプ事件、現代性教育研究ジャーナル、29号、p.6、2013年、査読無

茂木輝順、教科書分析・中学校保健体育科(特集・性教育と教科書)季刊セクシュアリティ、56号、pp.64-73、2012年、査読無

茂木輝順、純潔教育及び性教育の手引き・実践報告書等文献目録(1948~1980年まで)、教育学研究室紀要「教育とジェンダー」研究、9号、pp.71-80、2011年、査読無

[学会発表](計 0 件)

[図書](計 2 件)

茂木輝順 (橋本紀子、田代美江子、関口久志編、計12名著)ハタチまでに知っておきたい性のこと、大月書店、2014年、担当部分pp.9-15、総ページ数187、

茂木輝順 (荒堀憲二、松浦賢長編、計32名著)性教育学、朝倉書店、2012年、担当部分pp.1-7、総ページ数174、

[産業財産権]

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

[その他]

該当なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

茂木 輝順 (MOTEGI, Terunori)  
女子栄養大学・栄養科学研究所・客員研究員  
研究者番号：40570677

(2) 研究分担者

該当なし

(3) 連携研究者

該当なし